

Genome Editor Plus GEB+



Genome Editor に交流電圧出力機能を追加したことにより四倍体胚の作製や卵子活性化が可能に

卵子及び受精卵をはじめとする初期胚実験を 1 台ですべてカバー

特長

交流電圧出力機能

CUY21EDITIII で発表された Genome Editing by Electroporation of Cas9 Protein (GEEP) 法は従来のマイクロインジェクション法とは異なり、専用電極 (LF501 シリーズや GE シリーズ) を使用することで、均一条件下で一度にたくさんの受精卵をゲノム編集することが可能です。

本製品は受精卵ゲノム編集に特化した Genome Editor に交流 (AC) 電圧出力機能を追加しました。これ一台で初期胚実験を全てカバーできます。

四倍体作製・卵子活性化

Genome Edit モードに加えて、Fusion モードを搭載しています。Fusion モードは最適な電気条件を入力することで、四倍体作製や卵子活性化ができます。

プロトコル・ヒストリーの保存

大型のタッチパネルを採用し、波形パターンを確認しながら、直感的に電気条件を入力できます。プロトコルは任意の名前を自由に入力でき、20000 件以上保存可能です。出力した実行値が自動で 100 件分保存され、USB 経由でパソコンにデータを保存することができます。

仕様

Genome Edit モード

出力電圧	1 - 200 V (1 V 刻み設定)	波形	矩形波
パルス幅 (Pon)	0.1 - 1000 ms	パルス回数	1 - 1000 パルス (+) 1 - 500 パルス (+/-、ALT)
パルス間隔 (Poff)	1.0 - 1000 ms		

Activation モード

AC		DC パルス	
波形	正弦波	波形	矩形波
電圧 (実効電圧)	0 - 20.0 V (0.1 V 刻み設定)	電圧	1 - 200 V (1 V 刻み設定)
周波数	1MHz	パルス幅	5 - 999 μ 秒 (1 μ 秒刻み設定)
出力時間	0 - 99.9 秒 (0.1 秒刻み設定)	パルス間隔	0.01 - 9.99 秒 (0.01 秒刻み設定)
		パルス回数	1 - 1000 パルス (+) 1 - 500 パルス (+/-、ALT)
抵抗測定範囲	最大 4k Ω	電源	単相 100 V ; 260 VA ; 50/60 Hz
外寸・重量	幅 240 mm 奥行 380 mm (突起物を除く) 高さ 190 mm (ゴム足を除く)、重量 5.5 kg		

※掲載商品の仕様及び外観は、改良の為予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。